

豊後街道を一步一步 参勤交代・九州横断徒歩の旅



NPO法人自然を愛する会JOC（齊藤誠治理事長）主催の「第34回参勤交代・九州横断徒歩の旅」が行われ、小中学生ら208人が参加し、8月15日から21日にかけて大分市鶴崎をスタートし熊本城までの125kmの道のりを、完歩を目指して歩きました。

この催しは歴史体験学習や九州横断へのチャレンジ、団体行動を通して人と人との心のつながりを学ぶ目的で昭和53年から毎年行われており、今年で34年目を数え、これまで多くの小中学生らが参加しています。

19日には阿蘇市を歩き、休憩場所の坂梨公民館では地域住民からお茶や飴が配られ、疲れを癒す参加者。2回目の参加となった家入浩太郎くん（内牧小4年）は「来年も参加して300km 到達を目指して頑張りたい」と力強く語りました。

大作の日本画を寄贈



上西黒川の長濱典雄さんの孫、長浜友理香さん（26歳、新潟県十日町市）が大学の卒業制作として描き「京展」にも入選した日本画の大作を阿蘇市へ寄贈されました。

長濱典雄さんは退職後、大阪から故郷阿蘇市へ帰り、故郷へ貢献したいと現在、福祉活動や花植えなどの奉仕に努めておられます。今回の寄贈も阿蘇市の文化に貢献できればと考えられたものです。

作者の友理香さんは、多摩美術大学院を卒業するまで数々の入選作品を手がけ、現在は、新潟県の織物会社で友禅の振袖の企画デザイナーとして活躍されています。寄贈された「午後には読書を」と題された作品（縦2.28m）は、和紙に泥や天然鉱石を砕いた絵具、金箔などを用い描かれています。阿蘇図書館（内牧）に展示してありますので、ぜひ、ご鑑賞ください。

59日間におよぶ火焚き神事始まる



8月19日、役犬原の霜神社火焚き殿で、火焚き神事が始まりました。この神事は、国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つで、健磐龍命が早霜の害から五穀を守るために始めたといわれています。

神事では59日間火が焚き続けられます。19日の朝、古式に習いたる石の原野から切り出された火焚き用の槓が霜神社まで届けられ、神官により火が起こされ火焚き殿へ火が入ると、火焚き乙女が火を見守り、その幻想的な様子は2,500年を超える歴史を感じさせます。

今年の年番は竹原地区。現在火の見守りは乙女に代わり年番の氏子が行っています。火焚き乙女は西村綾音ちゃん（碧水小学校1年）と介添え



◀古式に習い竹原地区から霜神社まで台車を押して槓を運ぶ、的石地区と竹原地区の代表の皆さん。



▲火焚き殿で火を見守る火焚き乙女の西村綾音ちゃんと介添え役の祖母大田黒ハマ子さん。



北アメリカのお茶コンテストで、
長田さん栽培のお茶が一位！

北アメリカ（23ヶ国）で販売されているお茶のコンテスト North American Tea Championship が実施され、宮地で製茶工場を営んでいる長田浩二さん栽培のお茶が、蒸し緑茶部門で第1位に輝きました。

今大会はアメリカ全土で最も大きなお茶コンテストで抹茶やブレンド茶など15部門において、香り・味・口当たり・バランスが厳しく審査されます。緑茶部門には日本の大手メーカーも出品する中での快挙です。

長田さんのお茶を輸入販売しこの商品を大会に出品した、Mellow Monk Green Teas 代表のポール氏は「阿蘇のすばらしい環境で育ったお茶が審査員に認められてうれしい。お茶を購入する人たちも阿蘇の環境を理解しており地元農家から直輸入していることが喜ばれています」とコメント。阿蘇ファンのポール氏は「優勝をきっかけにもっと阿蘇をPRしたい」と話してくださいました。



▲お茶を栽培した長田さん
右がアメリカ販売のパッケージ



ポール氏

お茶を購入する人たちも阿蘇の環境を理解しており地元農家から直輸入していることが喜ばれています」とコメント。阿蘇ファンのポール氏は「優勝をきっかけにもっと阿蘇をPRしたい」と話してくださいました。

荒れ地を花いっぱい畑に！



小里地区の皆さんが、草が茂り通行にも危険性があつた箇所を持ち主に諮り、美しい憩いの場に変えようとして取り組み、花畑づくりに汗を流されました。

マリーゴールドやサルビア、メランポジウムなど色とりどりの花を植え、手作りの看板も立てられました。場所は阿蘇体育館の北側の交差点です。

豊作願い、手作り「かかし」が
勢ぞろい！



放送守10
阿蘇温泉観光協会の
Web TV ASO

第3回かかし作りが8月21日行われ6チームがアイデアを凝らして製作にあたり、ユニークなかかしや、スズメもびっくりの本物の人間そっくりのかかしが出来上がり、会場を沸かせました。

この催しは、内牧公民館（高宮晴夫館長）活動として毎年行われているもので、完成した作品は、稲刈りが終わるまで、小里の田んぼに立てられます。その光景は懐かしく鍋釣地区の田園に映え、地域おこしにもつながっています。かかしにかけられたタスキのメッセージも「復興 日本農業」



表彰式の様子。
優勝は小里チームでした。

「地域住民の絆を大切に がんばろう日本!!」等よくできていますので、ぜひご覧ください。

ようこそ内牧温泉へ！
未利用の草を看板に



放送守10
阿蘇温泉観光協会の
Web TV ASO

阿蘇温泉観光旅館協同組合（國米真市理事長）は、環境保全活動として山林を購入し水源涵養に取り組んでいることにプラスして、未利用の草の有効活用も考え、草を刈っての看板づくりに挑戦されました。

JR列車の車窓からもバッチリ見える本塚に「内牧温泉→」と大きく描き、見事な歓迎看板となりました。ぜひ、ごらんください。